

(4) 「呼び径」(nominal size)と「口径」(bore)

JIS B2001 では、口径を次のように定義している。

口径：管との接続端面におけるバルブの流路の直径

ここで「口径」は、実寸法を指していることに注意すべきである。すなわちバルブの大きさの区分を表す「呼び径」は実寸法である「口径」を「適当にまるめた」数値であり、両者は近似してはいるものの別個の概念である。

従ってカタログ等で「呼び径」が表示されている場合や、配管接続の仕様から「呼び径」が読み取れる場合は、「口径」の数値にとられることなく、これらにて該非を判断してよい。

(5) 接続形態と「口径」

(3) の注②にて呼び径を持たないバルブでは、口径を該非判定の判断材料とした。以下に口径とは具体的にどの部位の寸法であるかを接続形態に基づき解説する。

① フランジ接続

フランジ接続における接続端面は、バルブ外面（開口部）である。従って開口部の直径が口径である。

フランジ接続の場合のバルブ呼び径と口径の関係は、JIS B2001(バルブの呼び径および口径)が 10A 以上のものの口径を付表 1 にて、口径の許容誤差を付表 2 で掲げている。

これを要約すると次の表になる。口径の許容誤差がいずれも±2.0mm であるのは、JIS B2001 では、呼び径 10A 以下は全て±2.0mm と規定しているからである。例えば呼び径 10A の口径が下限の 8mm であるからといって、呼び径が 8A と誤解しないことが必要である。

弁呼び径 A	6	8	10	15	20	25	32	40	50～ (略)
弁呼び径 B	1/8	1/4	3/8	1/2	3/4	1	1 1/4	1 1/2	2～ (略)
口径 (フランジ 接続 単位 mm)	規格 なし	規格 なし	10.0 ±2.0	15.0 ±2.0	20.0 ±2.0	25.0 ±2.0	32.0 ±2.0	40.0 ±2.0	50.0 ±2.0

この表は、あくまでもフランジ接続の場合を示すものであって、その他の接続形態（差し込み溶接形、突合せ溶接形、ねじ込み形など）には当てはまらないことに注意が必要である。また上表で 8A 以下のバルブに適合するフランジ規格がないのは、小口径のバルブでは、フランジ接続を用いない場合が多いからである。